

# あすぶっなぐ

社会福祉しずおか

2023

4

No.857

〈特集〉  
ふじのくに「地域共生」大賞から  
子育て世代と若年層への  
支援を考える



P06に  
登場!

## 見野孝子さん

(株)LCウェルネス代表取締役、静岡県社会福祉協議会地域づくり推進委員会副委員長。理想とする介護を目指しLCウェルネスを経営する傍ら、1,000人近くのボランティア、地域活動の実践者を養成し、令和4年度厚生労働大臣表彰(地域福祉活動功労者)を受賞。趣味はスイミング。



編集発行 / 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

静岡市葵区駿府町1番70号 TEL.054-254-5248 FAX.054-251-7508 ✉ spcsw@shizuoka-wel.jp  
http://www.shizuoka-wel.jp 令和5年4月1日発行 1部50円 ※本機関紙は皆さまの会費を充当し発行しております。

Facebook >



Instagram >



# ふじのくに「地域共生」大賞から 子育て世代と若年層への支援を考える

～令和3年度の受賞団体に聞く活動の「今」～

## ふじのくに「地域共生」大賞とは

ふじのくに「地域共生」大賞とは、静岡県社協が平成30年度から実施している取り組みです。全ての人が世代や属性を超えて役割を持ち、自分らしく活躍できる地域共生社会へのきっかけ作りを目指し、福祉と教育、農林水産、多文化共生などの他分野との連携を毎年表彰しています。

静岡県社協が実施している、ふじのくに「地域共生」大賞は、取組開始以降5年間で197もの優れた活動を行う団体から応募がありました。

令和3年度の受賞団体「ママとね」、「しずおか共育ネット」にその活動内容や成果、今後の展望について伺いました。

令和3年度  
最優秀賞

一般社団法人  
ママとね



読書は中島さんと徳丸さんの共通の趣味。あひる図書館は新たな情報発信の場となっている。

### Profile

徳丸まゆみ さん（左）

「一般社団法人ママとね」では企画を担当。家族は夫と2人の子ども。経営する飲食店で「ごめんなさい、ごめんなさい」と恐縮しながら食事する小さな子を抱えたお母さんの多さを目の当たりにし、「何かできないか」と「ママとね」に加わる。「ごめんなさい」を「ありがとう」に変えられるつながりを考えて企画にしている。中島さんとは長子が同じ誕生日で同じ保育園。趣味は手芸や工作（粘土、羊毛）などの手仕事。児童養護施設勤務経験あり。

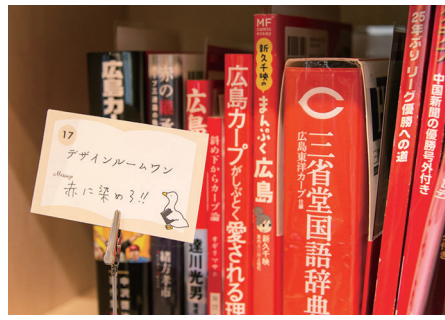
### Profile

中島あきこ さん（右）

地域の子育て情報支援団体「一般社団法人ママとね」の代表。家族は夫と2人の子ども。長子が4ヶ月の時に夫の転勤で三島市に転入し、知り合いがおらず孤獨育児を経験。当時は生活エリアに地域の子育て情報が少なく、口コミ以外に入手しにくかったことから、お母さんを中心に、情報が手に入らない子育て世代を少しでもサポートしたいと考え静岡県東部子育て情報サイト&ママコミュニティ「ママとね」を立ち上げた。好きなことはおいしいものを食べる、お酒を飲むこと。

「多分野連携」をキーワードに  
「地域で支える子育て」を目指す

三島市の街中、和食レストラン「風土」の2階にある「あひる図書館」とは、それぞれオーナーが違う「箱本棚」が数十と並ぶ私設図書館のこと。あひる図書館を運営する「ママとね」の代表である中島あきこさんは、あひる図書館のことを「本棚型のSNS」と呼びます。絶版になった本が並ぶ棚やワンテーマで集められた棚、中には読むのを挫折した本ばかりを集めた棚もあり、セレクトの傾向からオーナーの思いや人となりが見えなく伝わってきます。



オーナーの個性がにじみ出る「箱本棚」

島市に転居し、孤獨育児をせざるを得なかった中島さんの体験が元になっています。孤立しがちなお母さんを中心に子育て世代の居場所づくりとして親子サークルやサロン、地元企業と連携したイベント等を行ってきました。ところがコロナ禍によってイベントはことごとく中止となり、親同士つながりはほとんど希薄に。その時期に、本を介してつながる私設図書館の構想と出会いました。徳丸さんは経営するお店の2階を改装、その一角があひる図書館に生まれ変わりました。現在、本箱と呼ばれる棚のオーナーは77人いて、空きを待っているオーナー候補が10人前後いる人気のプロジェクトになっています。

情報発信事業

- 詩集「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」発行
- 地域の子育て情報サイトの運営

「ママとね」公式ホームページ

交流促進事業

- 親子サークル、サロンの開催
- あひる図書館の運営
- 各種イベントの開催 など



図書館の入り口はこの素敵な看板が目印！

性別を問わず現役の子育て世代以外の方が加わることが増えました。たとえイベント対象は親子層であっても、企画する側の多様化を感じます。

「実は子育てが苦手なんです」と中島さんは話します。「もちろん可愛いと思うけど、それほども子どもが好きではなくて、むしろ仕事のほうが好きです（笑）。でもきつと、そういうお母さんは他にもいると思う。思い当たる人は悩んだりしないで、あひる図書館や親子イベントに来てちょっと息抜きしてもいいんじゃないかなと思います」。対照的に、保育士の資格を持ち、赤ちゃんや子どもが大好きだと話す徳丸さん。関わるスタッフがそれぞれの個性を活かし、得意なことを持ち寄って企画運営している「ママとね」。毎年発行されている「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」はそんな中で生まれたママ・パパ・祖父母から赤ちゃんへ贈る詩集。公募で集まった詩は、どのページを見ても、赤ちゃんがこの世に誕生した喜びであふれています。



月2回開催の、親子サークルの様子



詩集「トツキトウカSHIZUOKA EAST」

館が彼ら世代のサードプレイスになるように」という思いが込められています。「地域のいろいろな人が参画し、支え、支えられ、役割を持つ多分野連携ができれば。そう話す中島さんと徳丸さん。未来に向けた眼差しが印象的でした。



現在、静岡市の3つの高校で伴走型支援を行うしずおか共育ネット。学校でも家庭でもない第3の居場所(サードプレイス)として、高校生の生きづらさを支援し、教福連携の役割を果たしています。静岡高校の定時制高校生のために食べ物配布会を行っているところにお邪魔しました。



1.食べ物配布会では、毎回アンケートを実施 2.袋の中身を見せ、生徒に内容を説明する井上さん

定時制・通信制  
高校生の  
生き抜く力を育む

しずおか共育ネットの活動内容は多岐にわたりますが、根幹となるビジョンは「すべての中高生が自らのポテンシャルに気づき、個性と能力を発揮できる社会の実現」。そしてミッションは「中高生に多様な価値観・出会い・挑戦の機会を提供すること」。

今回は活動の中でも特に高校生の生きづらさの支援に的を絞り、代表理事の井上美千子さんにお話を伺いました。

井上さんは活動を始めた初期の頃のことをこう話します。「最初は静岡中央高校で授業の時間をいただき、年に数回、将来を考えるワークショップを行っていた」。

「たんです」。大学生や若手社会人に参加してもらい、彼ら自身の体験談を披露してもらうことで高校生に寄り添い、高校生の立場になって将来を考える場となっていました。そこで井上さんは「ここまで自分の気持ちを話すのは初めてです」と目に涙を浮かべる生徒や、「あの子がみんな笑顔になるのを初めて見ました」と話す先生に出会います。

当時、学校と地域が連携する事例はほとんどない中、校長先生の「うちの学校には外部の力が必要です」という言葉も後押しになりました。

井上さんは当時勤務していた会社の上司の了解を得てボランティア活動を4〜5年続けました。ボランティア仲間がいたこと、自分たちを必要としてくれている高校生がいたこと、学校からも求められていたことなどが強い原動力になりました。しかし活動を続けるうちに、ボランティアのままで必要な人達にきちんと届けられる継続的な支援に限界があることに気づきます。「より一層、安定した支援を行うために平成29年にNPO法人を作り事業化しました」。

現在、高校生の生きづらさの支援として行っていることは大きく分けて2つ。一つは静岡中央高校で行っている「きやりこみゆかフェ」。食べ物や飲み物は無料。いつでもいいカフェを運営スタッフと大学生ボランティアが週に1回校内で開いています。「高校

生にとって年の近い大学生は親しみやすく頼れるお兄さんお姉さん。先生でもない、家族でもない、友だちでもない斜めの関係を作っています」。そしてもう一つがNPO法人フードバンクふじのくに、NPO法人POPOLOと連携して行っている食べ物配布会。「静岡中央高校では毎月、静岡高校と清水東高校の定時制に通う高校生に向けて隔月で行っています」。

臨機応変な対応で生徒のサードプレイスを担う

食べ物や飲み物を配布するうちに薄着の高校生が多いことに気づいた井上さんは急遽フェイスタックで冬服を募りました。「小学生の時から履いているんじゃないかと思えるような、くるぶしが見えた短いパンツや、穴の空いたスニーカーを身に着けている高校生もいるんです」。取材の日は食べ物以外にも暖かそうな服が並び、訪れた高校生を相手に井上さんが親身になって勧めます。「うん、それすごく似合うよ。あったかいし」と言われ、ある高校生は「このまま着ていきます」と笑顔になりました。必要なものをすぐに渡せるよう、対応は臨機応



学生インターン 中垣乃彩さん

定期的な会って関係性を築いてきた高校生は、私にとって妹や弟のように身近な存在です。

変に。「女子にはNPO法人男女共同参画フォーラムしずおかから生理用品も渡しています」。しずおか共育ネットが目指すのは、学校と家庭以外の、第三者である頼れる大人。「今後も教福連携の役割を果たしていきたいと思っています」。井上さんは「貫して中高生のサードプレイスを作り続けています」。



Profile  
NPO法人しずおか共育ネット  
代表理事 井上美千子 さん

大手複合企業のヒューマンリソース部門で働く傍ら、ボランティアで高校生に向けたキャリア形成のためのワークショップを開始したことが、しずおか共育ネットの最初の一步に。その後安定・継続して高校生を支援していくために平成29年、NPO法人しずおか共育ネットを設立。国家資格キャリアコンサルタント・認定キャリア教育コーディネーター。趣味は温泉巡り。島田市出身だけあってお気に入りには川根温泉ふれあいの泉。

ぐに渡せるよう、対応は臨機応



食べ物は嗜好や置かれた状況もあるため、内容を変えて手早く準備する

ふじのくに「地域共生」大賞について

静岡県社会福祉協議会では、  
「全ての世代の人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合う地域共生社会の実現」と  
「福祉分野と福祉以外の分野との協働促進」を図る活動を毎年表彰しています。

県社協HP特設サイトでは、  
過去の受賞団体の活動などを紹介しています。



特設サイトはこちら

お問い合わせ  
静岡県社会福祉協議会 地域福祉課  
〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 TEL.054-254-5224  
FAX.054-251-7508 ☑ chiiki@shizuoka-wel.jp

<http://shizuoka-wel.jp/> 静岡県社会福祉協議会 検索

ママとねとしずおか共育ネットの  
活動紹介動画も見るができます。



ママとね



しずおか共育ネット

# 福祉の“中の人”

様々な福祉の活動について、具体的な内容や魅力を、実際に活動している人に直撃!リアルな声をお届けします。



case.25  
株式会社L.O.ウェルネス代表取締役  
静岡県社会福祉協議会  
地域づくり推進委員会副委員長  
見野孝子 さん  
mino takako



## 「人は財産。地域介護に必要なのは人、だから養成が必要なの」

介護職はクリエイティブな仕事だと言いつつ、頭も身体も動かすことを厭わないパワーフルな見野さん。経営する高齢者デイサービスのみなさん、介護の裾野を広げるための地域の人材養成の取組が評価され、令和4年度の厚生労働大臣表彰を受賞されました。軽やかに行動し、静岡県の福祉の発展に関わる見野さんが思う、財・養成とは?

**Q 福祉の仕事に携わるきっかけは?**  
30代半ばで姑の入院に付き添い、行き場のない高齢者の「社会的入院」を目にしました。それが「在宅介護」の仕事を始めるといふ言葉もなかった頃です。介護は医療と同等に命に関わる大事な仕事です。責任の所在を明確にするため40歳の時、会社を立ち上げました。

**Q 見野さんの考える介護とは?**  
「何かをしてもらう」受け身の介護では、利用者の意欲がなくなっていくと思います。介護される側は、体は動かなくても、心はちゃんと感じているんです。終末期に、食事や排せつを他人の都合でコントロールされるなんて「人間の尊厳」が奪われると思いませんか? 私が実践する地域の福祉人材養成では、7つの疑似体験を取り入れていきます。全員耳栓と濡らした紙パンツをつけ、例えば認知症の疑似体験の場合は「街に出て「私の財布知らない?」と、3時間で100回周りの人に尋ねます。その言動に、周りの反応はさまざま。体験後には、ほとんどの受講者が「一人にしないでください」、「やさしい言葉をかけてください」という思いを持っていきます。この思いへの支援は、専門職でなくてもできること。介護は相手に共感する想像力が必要です。地域福祉には、この感受性があり、共感を持って取り組める人が財産。そう思っています。人材養成にも積極的に関わってきました。

**Q L.O.ウェルネスの活動とは?**  
「おいしい、うれしい、たのしい」を通して、感動を創っています。利用者との旅行や、農園芸を楽しんだりするの、そのひとつ。地域の協力で野菜を収穫する時は、利用者の体の動きが普段と違う。びっくりしますが、楽しいですよ。いろいろな機会を作り出し、スタッフと共同作業することで、関係性が深まります。私たちの合言葉は「もうダメだ」ではなく、「あれもできるこれでもできる」です。感動はキャッチボール。利用者もスタッフも日々心が動きます。「最後まで人間らしく幸せに生きてい」と思っていますし、そういう介護をこれからも応援していきます。

# Information

福祉にまつわる様々なお知らせや取り組みをご紹介します。あなたの暮らしに役立つことがあるかもしれません。

県社協へ寄附金をいただきました。  
ありがとうございました。

### ふれあい基金

静岡銀行ふれあい基金協会の皆様から138,600円の御寄附をいただきました。

※しずおかの居場所助成事業、地域共生大賞等、県内ボランティア活動の支援に活用させていただきます。

### 一般寄附金

公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 静岡県協会様から100,000円の御寄附をいただきました。

※「静岡県災害派遣福祉チーム(静岡DWAT)」の取組・運営等に活用させていただきます。

静岡県社会福祉協議会団体割引10%を適用いたします!

〔共済契約者及び被共済者が当組合で定める条件を満たす場合のみとなります〕

### 自動車保険、見直しのチャンス!!

- ✓ 会員の皆様、会員の同居のご家族、会員事業所にお勤めの従業員その同居のご家族もご利用頂けます
- ✓ 他社からの等級割引の継承可能です

<お問い合わせ> 静岡県袋井市川井205  
関東自動車共済協同組合 TEL: 0800-2000-109  
代理所静岡県共済センター(株) 承認番号1903-000711300

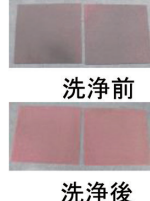
## 施設のメンテナンスを効率良い専門車両で応援します。

### カーテン出張クリーニング



特許ランドリー車

### カーペット・タイル出張丸洗い



### ブラインド・ロールスクリーン出張クリーニング



株式会社三ナツ 静岡県静岡市葵区産女 1060-1 フリーダイヤル-ミナツにハロー 0120-370286 fax054-295-9003

## 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

# ボランティア活動保険

商品パンフレットは  
こちらから  
(ふくしの保険ホームページ)



### 保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類	プラン		
	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
死亡保険金	1,040万円		
後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
入院保険金日額	6,500円		
手術 入院中の手術	65,000円		
保険金 外来の手術	32,500円		
通院保険金日額	4,000円		
特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償
地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料	350円	500円	550円

\*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

### <重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



### ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667  
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

# 福産品を探して

静岡県では福祉施設で障害者によって作られたものを「ふじのくに福産品」と名付けています。地域の特性を活かしたり趣向を凝らしたり、作る人も買う人もハッピーになる品々を紹介します！



1.材料にこだわった焼き菓子が並ぶ。2.ショートケーキは可愛くデコレーションして提供。3.オリジナルキャラクター「いもねこ」のグッズ。4.明るいカフェスペース。5.マスコットキャットのごまちゃん。

## 雑貨カフェ いもねこ

可愛い名前の通り穏やかで優しい雰囲気「いもねこ」。明るい店内は雑貨スペースとカフェスペースに分かれており、雑貨スペースにはアクセサリから日用雑貨までたくさんの猫グッズが並んでいます。レジンで作ったアクセサリは系列の放課後デイサービス「ドリーム・フィールド」の卒業生が作っているもの。細かなところまで可愛く、猫好きにはたまりません。オリジナルの「いもねこ」グッズもさまざまなバリエーションがあります。カフェスペースの方に並んでいる焼き菓子やケーキは、パティシエと一緒に利

用者が作っているもの。さつまいもを抱えた猫のクッキーや、ホワイトチョコで猫耳をあしらったショートケーキなど、細部まで手抜きなしの可愛さ！国産小麦や発酵バター、竹炭など、安心安全な材料も嬉しいポイントです。メインが選べるお得なランチセットも人気があっておすすめです。

浜松市南区芳川町320 TEL.053-570-3877  
営.10:00~18:00 休.無休(年末年始を除く) 駐.3台



## 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金 助成団体募集のお知らせ

静岡県内のNPO法人やボランティアグループ等が行う地域福祉・ボランティア活動事業等に対して助成を行います。

### ● 活動推進助成

地域福祉・ボランティア活動、子育て支援活動に関する事業に助成

1グループ20万円以内

### ● 先駆的(モデル的)活動助成

制度の狭間にある福祉(生活)課題の解決に向けた事業で、事業計画が具体的で一定の成果が期待できる先駆的(モデル的)事業に助成(書類選考後、プレゼンテーションを実施します)

1グループ50万円以内

### ● セルフヘルプグループ活動支援

高齢者や障がい者等が中心となるグループで、自立・自助活動を通じて、地域福祉・在宅福祉の向上に向けて取り組む活動に助成(市町社会福祉協議会等の推薦が必要です)

1グループ20万円以内

### ● しずおかの居場所助成

静岡県内において居場所(こども食堂含む)の開設、又は活動のブラッシュアップ(対象者を広げる等)を行う事業に助成

1グループ15万円以内

申込締切は 5月10日(水) 必着です。詳しくは本会ホームページをご覧ください。 <http://www.shizuoka-wel.jp/>